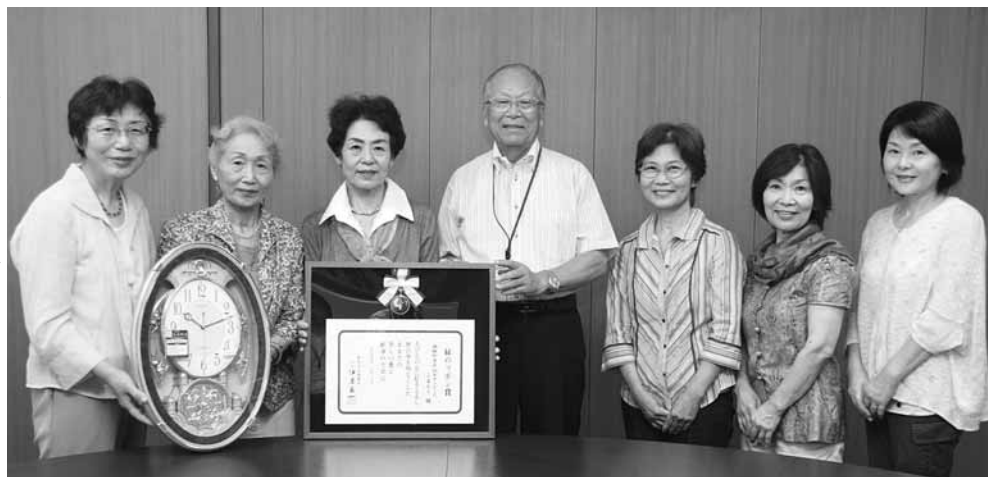


長年のボランティア活動に、また一つ勲章

音声訳ボランティア「こまどり」が熊日緑のリボン賞を受賞



受賞の報告に訪れたこまどりのみなさん

社会奉仕や環境美化などの活動に長年取り組んでいる個人や団体をたたえる「第105回熊日緑のリボン賞」の選考がこのほど行われ、本町から音声訳ボランティア「こまどり」(田邊小夜子代表)が受賞しました。

こまどりは平成9年10月、旧働く婦人の家主催講座の「ボランティア朗読」受講修了者13人により、広報紙などの音声ボランティア活動を始めました。以来15年間、広報まじきをはじめ、議会だより、社協だより、新聞コラムなどを音訳し続けています。

平成16年3月には、社会福祉功労団体として熊本県から表彰を受けており、今回の受賞は、また一つ新たな勲章となりました。7月18日、受賞の報告に訪れたこまどりのみなさんに住永町長は、「活動を続ける中で、見えない苦労がたくさんあると思いますが、これからも頑張ってください」と労をねぎらいました。

代表の田邊さんは「広報紙に掲載された内容は、期間限定で地域に密着した新鮮な情報ばかり。待っている人がいる限り、これからもエンドレスで続けていきたい」とさらなる飛躍を誓っていました。

「抜けたー」畑に歓声

津森小学校農園でジャガイモの収穫



でっかいジャガイモ、とれたー！

津森小学校の学校農園「伍三郎農園」(上陳)で6月20日、同校児童、町立第3保育所の4、5歳児、木山中学校生徒ら合わせて117人がジャガイモの収穫作業を行いました。2月に植えた種イモは同校PTAなどが管理を続け、たくさんの実が成りました。子どもたちは仲良く手をつなぎながら農園に入ると、たどたどしい手つきで、土の中のジャガイモを掘り起こし始めました。力が足りず、なかなか掘り起こすことができない園児たちに小学生の「お兄ちゃん・お姉ちゃん」が手を添えて、サポート。みんなの協力で約10kgの畑のジャガイモは、きれいに掘り上げられました。無事、畑仕事を終えた子どもたちは、満面の笑みで「やっと抜けたー」「でっかいのがとれた」と次々に歓声を上げていました。